



R7.5.20.撮影

## 【巻頭言】

## 福島県小学校長会100周年の節目の年に

福島県小学校長会安達支会長 太田 孝志  
(二本松市立二本松南小学校)

福島県小学校長会は、大正15年に発足し、100年の歴史を刻んできました。諸先輩方は、その時代その時代の教育の在り方、校長として果たすべき役割や指導性について、未来に生きる子どもたちの育成の視点から、常に時代にふさわしい理想を掲げ、課題解決のために真摯に研究と実践を積み重ねてきました。そして、本県の小学校教育の充実・発展に大きく寄与されてきました。改めて、諸先輩方の熱意とご尽力に深く敬意を表するとともに、福島県小学校長会の歴史と伝統を振り返り、新たな一步を踏み出す契機の年にしなければならないと感じております。

今年8月には、安達地区で【福島県小学校長会100周年記念事業】として、「福島県小学校長会100周年記念式典」「第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会」が開催されます。福島県小学校長会100周年という節目の年に、安達支会が主管支会となって福島県小学校長会研究協議会を運営することは、とても光栄なことと思うと同時に、その事業成功に向けて、安達支会の会員として責任の重さも感じています。

安達大会を開催するにあたっては、【福島県小学校長会100周年記念事業】の一環として記念式典と同日開催されること、二本松市民会館や岳温泉を会場として行われること、ICT機器を活用した分科会での新たな取組がなされること、令和9年度に郡山市で開催される全国大会を見据えた大会であることなど、今までとは違う運営方法であり、様々な状況を想定しながら、令和5年度より準備が進められてきました。令和6年度より安達支会の一員となった私にとっては、早い段階から会員の皆様が準備を進められてきたことへの感謝、また、話し合いを進めていく中で「安達は一つ」の合言葉の意味、会員の皆様一人一人の力の大きさを改めて感じています。

「第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会」では、今までの福島県小学校長会の研究の成果を継承しつつ、大会主題に掲げてある

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」  
～福島に誇りをもち 多様な他者と協働しながら  
持続可能な社会を創る子どもを育てる学校経営と校長の在り方～

に向けて、変化が激しく予測困難な社会の中で、これからの未来に向けた学校教育の在り方・校長としての在り方について、改めて深く考えることができる意義のある研究協議会にしていかなければならないと思っています。そして、私自身も決意を新たにし、校長としての志を遂げるべく、子どもたちと学校の未来を見据えたビジョンをもち、子どもたちと教職員のために一步の歩みを大切に、前へ前へと進むことができるように努めていきたいと思っています。

安達大会の成功と安達地区各小学校、安達支会のより一層の充実・発展のために、会員の皆様と一緒に「安達は一つ」の合言葉のもと、福島県小学校長会100周年という節目の今年、がんばっていききたいと思います。

## 【総務部活動計画】

## 「安達は一つ」を実効あるものに

総務部長 五十嵐 洋之  
(大玉村立玉井小学校)

## 1 活動方針・活動内容

- (1) 全国・東北・県小学校長会との緊密な連携と調整のもと、協議・研修等の充実を図る。
  - 第77回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会(10月16日～17日 福岡市)
  - 第65回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会(7月3日～4日 秋田市)
  - 福島県小学校長会100周年記念式典・第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会(令和7年8月)に向けた準備
- (2) 支会・各専門部の組織を十分に機能させ、計画的かつ継続的な活動を展開し、特色ある学校経営の創造に資する。
  - 年間計画に基づく研修や情報交換
    - ・全体研修会、方部別研修会
    - ・各専門部(研究部、行財政部、広報部、生徒指導部、経理部)の活動と情報交換
  - 創意工夫を凝らした運営
    - ・活動内容・方法等の工夫
- (3) 各種教育団体との連携を密にし、教育課題の解決と教職員の資質・能力の向上に資する。
  - 県小教研研究協議会の開催
    - ・道徳科部会への協力(10月16日 安達公民館)
  - 地区小中学校長協議会との連携活動
    - ・総会 (4月11日)
    - ・安達地区教育長との懇談会(8月29日)
    - ・退職校長会との懇談会(12月5日)
    - ・役職定年校長感謝会(3月19日)
    - ・中堅教員等実務研修会(5月～7月)
  - 小中学校音楽祭、理科作品展、特別支援学級小中交流会・児童作品展、書写実技研修会

## 2 「安達は一つ」を実効あるものに

学校経営上の課題解決に向け、25名の会員が本音で語り合い、情報を共有するとともに、校長としての在り方について研修を深め「安達は一つ」を実効あるものにしたい。

## 【経理部活動計画】

## 適正かつ円滑な経理を目指して

経理部長 佐藤 雅彦  
(本宮市立五百川小学校)

## 1 活動方針

全国・東北・県小学校長会の動向を踏まえ、本会の目的に沿った質の高い活動が展開できるよう、適正な予算編成や円滑な執行にあたる。

## 2 組織

二本松方部 菅野 芳弘(安達太良小)  
東達方部 騎西 克枝(小浜小)  
南達方部 佐藤 雅彦(五百川小)

## 3 会費の執行状況

- (1) 今年度会費(一人あたり) 70,000円
- (2) 負担金内訳
 

|               |         |
|---------------|---------|
| ① 県小学校長会費     | 30,000円 |
| ② 全連小会費       | 8,000円  |
| ③ 東北連小会費      | 2,000円  |
| ④ 小中連協会費      | 11,000円 |
| ⑤ 研究大会基金      | 1,000円  |
| ⑥ 全国・東北大会参加補助 | 1,000円  |
| ⑦ 日本教育会費      | 3,100円  |
| ⑧ 東北連小準備金     | 300円    |
- (3) 賛助会費
 

|             |      |
|-------------|------|
| ① 退職校長会賛助会費 | 500円 |
|-------------|------|
- (4) その他
  - ・ 残金については、全連小・東北連小大会参加費や研究調査費等に充てる。
  - ・ 校長会研修会はすべて県費旅費対応となる。
  - ・ 会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

## 【行財政部活動計画】

## 教育行政上の課題解決に向けて

行財政部長 佐藤 睦弘  
(二本松市立原瀬小学校)

## 1 活動方針

- (1) 教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進する。
- (2) 当面する課題や新たな視点から調査研究活動を行う。また、特別調査として今年度も大震災・原子力災害の影響に係る調査を継続して行うものとする。
- (3) 関係機関との連携を保ち、教育行政上の諸問題について情報を収集するとともに、広報部と連携を図り適時・適切な対応に努める。
- (4) 組織をあげて地域課題を解決するための活動を推進する。
- (5) 全連小、全日中、東北連小・東北地区中及び関係機関との連携を図り、広い視野に立つて課題解決にあたる。

## 2 活動内容

- (1) 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備充実
- (2) 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- (3) 当面する重要課題の調査研究とその課題解決

## 3 活動計画

- (1) 行財政部会
  - 組織・活動計画作成（4月）
  - 調査Ⅰ・Ⅱ及び特別調査の実施（5月）
  - 行財政上の課題把握（6・7月）
  - 要望活動の推進（8月～）
  - 活動の反省（1月）
  - 人事の反省（3月）
- (2) 各種県行財政部会等への出席
  - 県行財政部合同部長会・代表部長会
  - 県行財政部幹事会・合同幹事会

## 【研究部活動計画】

## 第Ⅲ期研究推進

「福島に誇りをもち多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子どもを育てる学校経営と校長の在り方」(令和6・7年度)

研究部長 齋藤 みちる  
(二本松市立杉田小学校)

## 1 活動方針

- (1) 「研究の手引き～校長の在り方（役割と指導性）～」を踏まえ「福島に誇りをもち多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子ども」の育成に向けた校長としての取組が明らかになるように進める。
- (2) 組織的な研究であることを認識し、組織だからこそできる質の高い実践研究を進める。
- (3) 7月の東北連合小学校長会研究協議会秋田大会に参加し、校長としての職能向上に寄与すると共に8月の県小学校長会研究協議会安達大会を見据え運営の仕方などを学ぶ機会とする。
- (4) 令和8・9年度の研究に向けて、東達方部を中心に研究内容を精選し方向性を決める。
- (5) 県小学校長会研究協議会安達大会に向けて運営委員会を組織し、福島支会、伊達支会と連携し、確実な準備及び運営にあたる。

## 2 活動内容

- (1) 各方部・各校による実践
- (2) 東北連小秋田大会13名の参加
- (3) 県小学校長会研究協議会安達大会の開催
- (4) 全連小研究協議会福岡大会への参加
- (5) 「研究集録第46集」の作成(南達を中心に)
- (6) 令和8・9年度の研究の準備及び推進

## 3 研究組織と研究の視点

|     |                         |                                                                                                     |
|-----|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 二本松 | 方部主任<br>齋藤 みちる<br>(杉田小) | IV危機管理 7学校安全<br>自らの命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方<br>【視点2】<br>家庭や地域社会との連携・協働を図った組織的・計画的な安全教育・防災教育に関わる取組の推進 |
| 東達  | 方部主任<br>國馬 光夫<br>(新殿小)  |                                                                                                     |
| 南達  | 方部主任<br>安藤 靖<br>(岩根小)   |                                                                                                     |

## 【生徒指導部活動計画】

## 生徒指導上の課題解決に向けて

生徒指導部長 伊藤 比呂美  
(本宮市立本宮まゆみ小学校)

## 1 活動目標と方針

- (1) 県小学校長会生徒指導部活動方針・重点を踏まえ、本支会における生徒指導上の諸問題及び対応について情報交換を行い、学校経営に役立てる。
- (2) 生徒指導上の共通課題等について解決策を探る。
- (3) 幼稚園・子ども園・保育所や中学校及び関係機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

## 2 活動内容

- (1) 生徒指導上の当面する課題についての情報収集と提供を行う。
  - ① 「心のケア」を必要とする児童の実態調査
  - ② 「いじめ・不登校・虐待・暴力行為」に関する調査
  - ③ 「ネット・SNS利用の実態」ルールに関する調査
- (2) 共通課題解決に向けての実践状況の情報交換、検討協議をする。
- (3) 各中学校区ごとに関係機関との連携を図り幼・小・中の一貫した生徒指導を行う。

## 3 活動計画

- (1) 生徒指導部会
  - 組織・活動計画作成 (4月)
  - 調査の実施 (5～6月)
  - 調査報告書の提供・情報交換 (8月)
  - 今年度の反省と次年度の取組 (2月)
- (2) 各種県生徒指導部会への出席

## 4 生徒指導部組織

二本松方部 荒川 修(塩沢小)  
東達方部 齋藤 直(東和小)  
南達方部 伊藤比呂美(本宮まゆみ小)

## 【広報部活動計画】

「安達は一つ」  
～つながりを深める広報活動～

広報部長 石川 淳  
(二本松市立渋川小学校)

## 1 活動目標

- (1) 会員の研鑽と交流、学校経営に寄与する広報活動を推進する。
- (2) 関係機関との連携を図り、情報交換や資料提供のための広報活動を推進する。

## 2 活動内容

- (1) 広報「安達太良」の発行(年3回)
- (2) 地区広報部会の開催と連携
- (3) 県広報部幹事会との連携
- (4) 県会報等への寄稿

## 3 活動方針

- (1) 広報「安達太良」の発行に重点を置き、全会員1回を原則として寄稿を依頼する。
- (2) 校長会組織や担当する領域・分野を生かして寄稿を依頼する。
- (3) 広報の発行は年3回とし、支会の特色を生かし親しみのもてる編集に心がける。
- (4) 県会報等の寄稿については、支会長より依頼する。
- (5) 会員への会報はメールで届ける。

## 4 活動日程

- (1) 広報部の活動計画(第1回研修会にて承認)
- (2) 広報部会 (必要に応じてメール等で)
- (3) 広報の発行予定
 

|      |       |
|------|-------|
| 203号 | 7月1日  |
| 204号 | 12月1日 |
| 205号 | 3月2日  |
- (4) 県会報への寄稿
  - 県会報「【支会だより】原稿依頼」
    - ・ 「今年度の活動に向けて」(261号)
    - ・ 特集「テーマ」(262号)

## 5 広報部組織

二本松方部 中丸 徹(石井小)  
東達方部 石川 淳(渋川小)  
南達方部 石井 隆博(和田小)

## 【新任校長として】

探究！大平小の  
「しあわせ」のカタチ

二本松市立大平小学校 齋藤 麻紀子

5月のある日。「校長先生、来てください！」と3年生に呼ばれて教室へ行ってみると、子どもたちが1つの虫かごをのぞき込み、モンシロチョウが羽化する瞬間を見守っていました。さなぎから出てきたチョウが羽を広げる様子をキラキラした目で見つめている子どもたち。そして、飛び立つチョウに手を振り、追いかけていく子どもたちの心には、思いやりと命のすばらしさをまっすぐに受け止める力があることを感じました。そして、子どもたちの心が動く瞬間を大切にしていきたいと思いました。

近年「ウェルビーイング」という言葉が教育現場においても注目されています。学力向上だけでなく、子どもたちが、健康で安心して学校生活を送ること、さらに、人とのつながりや心を動かされる経験を通して、豊かな心と感性を育むことができる場が子どもにとって「しあわせ」な学校なのではないかと考えています。そして、大平小をそんな学校にしたいと模索しています。

ありがたいことに、第1回学校運営協議会では、地域の方から「地域と子どもがもっと顔見知りになれる大平地区にしたい」というご意見をいただきました。子どもたちと地域がつながることは、子どもたちだけでなく大平地区にとっての「しあわせ」にもつながります。

校長会の皆様のご指導とお力添えをいただきながら、自己研鑽を重ね、大平小にとっての「しあわせ」の姿を子どもたちや先生方、保護者や地域の皆様とともに探究していきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 【新任校長として】

3度目の正直  
～責任の重さを感じて～

二本松市立小浜小学校 騎西 克枝

御存知の方も多いと思いますが、小浜小学校に赴任するのは3度目です。20代の教諭時代、教頭昇任校、そして校長昇任の現在です。

「3度目の正直」と書くと、1度目、2度目が失敗のように思われるかもしれませんが決してそうではありません。そのときお仕えした校長先生や同僚が私を支えてくれた日々を昨日のことのよう思い出します。

そして、今校長として小浜小学校を任された意味を問いつける日々を送っています。今更ながら、一校を任されるということはこれほど責任があることなのかと、校長になってずっと緊張の日々が続いています。でも、校長は、決して慌てず、冷静に、努めて明るくと自分に言い聞かせながら、今日も旗を持って横断歩道に立ちます。

子どもたちの素直さ、保護者の温かさ、先生方の熱心さはいつの時代も変わりありません。152年の伝統がある学校に対する地域の期待も大変熱いものがあります。しかし、時代の波は岩代地域にも押し寄せています。具体的なことはまだ聞いていませんが、岩代地域の義務教育学校設置に向けて何かしらの準備が待っています。くしくも岩代の小学校3校の校長は新任で、不安なことがあればすぐに情報交換を行うことができます。今後も、同じ歩みで進んでいけたらと思っています。また、安達支会の校長先生方にも日頃より様々な御助言をいただき、大変心強く感じています。今後も日々成長できるように精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 【新任校長として】

## 畏怖の念

二本松市立旭小学校 菅野 智香子

令和7年4月7日。校長という立場で行う初めての入学式。校長式辞で演台の前に立つ。子どもたち、保護者、教職員、来賓の方々。全ての視線が私に注がれる。

「怖い。」

一瞬、畏怖の念が頭をよぎった。教職30年目にして、初めての感覚だった。

なぜ怖かったのか。この学校の最終責任者であることの覚悟に対峙したからだ。学校は様々な事態に対応しなければならない。子どもたちの様子、教職員の状況、保護者への説明、外部との関わり、教育委員会とのやり取り等々。枚挙にいとまのない諸々の動きの、そのトップに校長がいる。後ろには誰もいない。学校内のすべての責任が校長にある。その大役を私に果たせるのだろうか……。

なぜ怖かったのか。自分をさらけ出すことの孤独を実感したからだ。式はもとより多くの機会、校長の一挙手一投足をみんなが見ている。この校長は子どもたちや教員を守っているか。務めを果たしているか。多くの視線を感じる。お手本はあっても、その通りにいくとは限らない。他に誰にも頼めない。足が震えるけれど、そこから逃げることはできない。私は本当に正しい価値観をもっているのだろうか……。

「畏怖の念」とは、畏敬すべきものに対して抱く、恐れと敬いの気持ちのことである。だからこそ私は、あのとき感じたこの気持ちを、この職を解かれるそのときまで持ち続けていよう。「怖い」と思うからこそ謙虚になり、堅実な判断ができるはずだ。

校長会の皆様のお力添えをいただきながら、自己研鑽に励んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 【新任校長として】

## 校長室の敷居を低く

本宮市立白岩小学校 遠藤 博

3月31日。施錠して鍵をポストに入れ、学校を後にしたのが22時、第1回職員会議の校長指示伝達事項を作ったのは、帰宅後のことです。

最後までドタバタでしたが、資料は短時間で完成しました。自分が目指す学校像は、随分前から決めていたからです。

それは校長室の敷居が低い学校でした。校長室を先生方、子どもたち、保護者、地域の方々など、学校に関わるたくさんの人が気軽に出入りできる空間にすること。それが最初にしたいことです。

4月1日。緊張と不安の中、新年度がスタートしました。職員会議で私が話したことは……

- ①信頼関係構築の第一歩は対話から
- ②明るい学校づくりは明るい職員室から
- ③校長職は権威ではなく役割。先生方と共に！
- ④先生方の力を借して欲しい！

「校長職は孤独」と言われますが、自分から歩み寄ればいいと考え、校長室のドアを開放し、初日から遠慮なく、ぐいぐい話しかけました。

児童理解の第一歩は距離感の短縮です。手立てとして特技の絵を使いました。人気アニメキャラを色紙に描いて昇降口付近に掲示。「リクエスト募集中」と告知しました。あれから2ヶ月経ちますが、30枚以上のリクエスト色紙が壁を埋め尽くし続けています。昼休みに友達と誘い合って校長室に遊びに来てくれる子も現れ始めました。あいさつは、かなり上手になってきています。

学校経営は校長自ら動き出すことが肝要と考えますが、最適な判断をする上で校長会の皆様のお力添えや後押しが必要不可欠です。繋がりを大切にしながら精進しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

